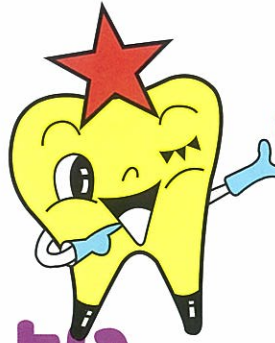


夢みる こども基金だより



No. **4**

〈平成11年〉

10月1日

発行:夢みるこども基金事務局

〒810-0042 福岡市中央区赤坂1-12-6 赤坂Sビル2F ☎ 092-751-0021 FAX 092-751-0249



'99夢みるこどもキャンペーン 第五回イベント

「ケーキがつなぐ友情の輪」開催

▲阪神の子供たちも5年ぶりに参加。新たな友情の輪が広がった(セキアヒルズ特設ステージ)

「夢みるこどもキャンペーン」(主催:夢みるこども基金|理事長:中原爽|日本歯科医師会会長)の、記念すべき五回目のイベントが八月八、九の両日、熊本県南関町のリゾート・ショッピング大型複合施設セキアヒルズで開催された。今年には五年前に熊本市・阿蘇での第一回イベントに招いた阪神大震災で両親を亡くした子供たちやその里親として子供たちを温かく迎えてもらった阿蘇・久木野村の方々なども一緒になって、大きなケーキづくりにチャレンジしました。

一九九四年二月に実質的にスタートした「夢みるこどもキャンペーン」は日本歯科医師会の協力で患者さん方から、不要になった歯の金属冠を寄贈してもらい、このリサイクル益金を財源にして全国の子供たちから、いろいろな夢を集め、その夢をかなえるイベントを展開しています。

今年のイベントの提案者であった、愛媛県宇和町・宇和中学校二年の佐々木由貴さんの「大きなケーキをつくってみんなで食べよう」の作文が春休みに福岡市内で開かれた「こども会議」で「ケーキがつなぐ友情の輪」のイベントに膨らみ巨大なケーキづくりになりました。

海外出張から帰ったばかりの基金理事のアグネス・チャンさん、全国から集まった「こども会議」の子供たち、特別に招かれた五年前の阪神大震災の子、近くの児童養護施設の子供たち、エプロン姿で参加した基金理事長代行の河野博之福岡県歯科医師会会長も加わってセキアヒルズのオープン調理場で、ギネスブックにでも掲載されそうな大きなケーキづくりに楽しみました。

翌日は、セキアヒルズで遊んだあと、みんなで作った大きなケーキを携えて、福岡市の施設を訪問、待ち構えていた子供たちから大歓迎されました。

ケーキ作りに 広がる笑顔

「ケーキがたなぐ友情の輪」とテーマは決まったが、果して、夏の真つ盛りになどればどのケーキを作ることができるか、しかもそれを受け入れる施設はあるだろうか。

事務局でいろいろと検討の末に、熊本県南関町の大型複合施設セキアヒルズのホテル内にあるオープン調理場で、境孝道ベーカーリー課長の協力で、実施することが決まった。

このケーキは長さ四二メートル、幅〇・九メートル、高さ五センチの横に広いスポンジケーキ。この上に、境課長が前の夜、三時間がかりで用意してくれたケーキの世界地図や、人形、マンガのキャラクター、家、それにイチゴ、バナナ、メロンなどの果物をみんなで思い思いにデコレートして、巨大なケーキを作り上げていった。

前日まで海外に出掛けていたアグネス・チャンさんも、四か月前、福岡市で開かれた「こども会議」の子供たちと再会。早速着替えながら「おうちでも、子供たちにケーキを作ってあげるのが大好きなの」と、子供たちとうれしそうにケーキづくりを開始。

やや遅れて、大牟田市の児童養護施設の甘木山学園から、幼い子供たちも特別に参加。

それに、今年は夢みるこども基金にとつて、記念すべき節目の五回目のイベントとあつて、基金スタートの年に第二回イベントに参加した阪神大震災で両親を失ったこともたち十一人中二人も特別に招待した。

さらに、基金は学校が足りなくて困っているバングラデシュに「夢みるこども基金学校」の建設を進めているが、ここからも関係者が参加。



▲子供たちに交じってケーキづくりを楽しむ河野基金理事長代行とアグネス・チャン理事

河野博之基金理事長代行が、「みんなでおいしいケーキをつくって食べましょう」と呼びかけるなど、大勢の幸せそうな笑顔が調理場にあふれた。

ケーキづくりのあとは、ホテルとアウトレットの店の前に特設ステージが用意され、全国から集まった「こども会議」の十五人の子供たちが紹介された後、バングラデシュへの三度目の学校建設資金や、ネパールで歯科医療のボランティア活動を続けているネパール歯科医療協力会、福岡・ネパール児童教育振興会などに基金から助成金が贈与された。

そのあと、宮崎市から参加した筋ジストロフィー少年バンドが元氣よく、演奏した。

続いてアグネス・チャンさんの特別ショーになり、世界を駆けめぐっているアグネス・チャンさんらしい、心にしみるようなトーク、香港の両親や兄弟の話を織りまぜながら「ひなげしの花」

や「草原の輝き」など思い出の歌を、次々に披露して、セキアヒルズへ遊びにきていた人たちも巻き込み、盛り上がった。

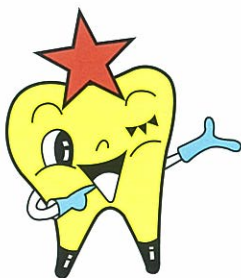
翌日は、福岡市東区の児童養護施設に巨大ケーキの部を届けた。

福岡市東区三苫の児童養護施設「和白青松園」には九日午後、「こども会議」参加者のうち福岡県内を中心に九州各地の子供や付き添いの父母、ボランティアなど約二十人が訪れ、ケーキ百個をプレゼントした。

同園には家庭的に思えない幼児や小、中、高校生約百人が入所している。二行がバスで到着すると、二時間も前から待ちわびていたこともたちから大きな拍手が起きた。

ケーキの贈呈は同園内の食堂で行われ、古市悟・夢みるこども基金顧問がキャンペーンの趣旨とケーキづくりの経緯を説明。「こども会議」の子供たちが学園側代表の幼児や小学生十人に箱に詰めたケーキを手渡すと、みんな大喜びで「ありがとう」と大事そうに受け取り、さっそく全員で食べた。

渡邊勝美園長は「夏休み中の思いがけないプレゼントです。子供の夢を育てる、素晴らしいキャンペーンを初めて知りました。来年は学園の子供たちにも募集の作文やイラストコンクールに応募させ、こども会議やイベントにも参加できるようにしたい」と話していた。



▲児童養護施設・和白青松園の子供たちにケーキをプレゼントするこども会議のメンバー

五年ぶりの再会

今年のイベントは五回目。夢みるこどもキャンペーンにとつて節目の年でもありました。アグネス・チャンさんからの希望もあつて、平成七年の夏「夢みるこどもキャンペーン・阿蘇こども出会いの里」に参加した皆さんが今回、駆けつけてくれました。

一回目のイベントは阪神大震災で両親を失った子供たちに新しい家族を作ろうという趣旨で開催されました。そのイベントの基になった作文を書いた長尾怜美さん(福岡県小郡市)を始め、神戸からは吉田綾香さんとおばあちゃん、仲谷健史君、阿蘇のホストファミリーの伊藤清起さん、山村孝正さんの家族らが五年ぶりに再会しました。

子供たちの成長した姿をみて、アグネス・チヤンさんも感動されていたようでした。子供たちも昔の思い出話に花が咲き、お互いの近況を報告していました。

特に長尾さんと吉田さんはずっと文通を続けていたが、実際に会うのは「阿蘇子ども出会いの里」以来。でも空港で会った瞬間に手紙の世界に溶け込んだように話ができた。長尾さんが事務局にお便りをくれました。

「夢みる子どもキャンペーン」がきっかけとなつて参加者の輪が広がっているようで、スタッフ一同喜んでいきます。これからもずっと「出会い」を大切にしていってほしいと願っています。

99 夢みる子ども

キャンペーン

—バズも宣言—



私たちの小さな夢が、たくさんの人たちの協力で大きくふくらみ、今日、全国の子どもたちが熊本県南関町に集い、「夢みる子どもキャンペーン」の第五回目のイベント「ケーキがつなぐ友情の輪」を開きました。

十五人の「子ども会議」のメンバーの他、第一回のイベントに参加した阪神・淡路大震災の子供たち、難病と闘う筋ジストロフィーの少年バンド、地元の甘木山学園の子供たち。

ほとんどの人が初めての出会いでしたが、一つの大きなケーキをみんな力で合わせて作ることを通じて、私たちはすぐに仲良くな

ることができました。

みんな同じ人間。人を思いやる優しい心とそれぞれが夢を抱いて、それに向かつてまっすぐ生きていこうと思っているからだと思います。

特に五年前の大地震で両親を亡くした阪神の友だちが悲しみを乗り越えて、こんなにも明るくそしてたくましく成長された姿をみて、私たちだけでなく今日、お越しいただいた多くの人たちが感動し、勇気づけられました。生きるという言葉のすばらしさと人との出会いの尊さを改めてかみしめています。

短い時間でしたが、今日ここに集まったみんなの笑顔、言葉、輝きを私たちは決して忘れません。

私たちは一人ではありません。この出会いを大切な思い出にしたいと思います。

夢みる子どもキャンペーンは今日一日だけのものではありません。歯科医師の先生たちを始め、多くの皆さんのご協力を得て、キャンペーンの輪をさらに広げ、一人でも多くの人たちと手をつなぎあつて、一緒に大きな夢を育て、これからやってくる二十一世紀を素晴らしい時代にしたいと思えます。

一九九九年八月八日

第五回夢みる子どもキャンペーン

「ケーキがつなぐ友情の輪」

参加者同



▲できあがったケーキに歓声を上げる子供たち



▲情熱的に演奏する筋ジストバンド「パッションズ」の皆さん



▲5年前の思い出を振り返る第1回イベント参加の阪神の子ら

助成金を受けた 3団体の活動報告

ネパールで治療した人数 二万三千を超す

ネパール歯科医療協力会

理事長 中村 修

(九州歯科大学助教授)

ネパールは地球の屋根ヒマラヤの王国ですが、山国という地理的条件から経済開発がおくれ世界の最貧国のつに数えられています。しかし、国民は勤勉で優しく静かに山の生活を送っています。人口は二千万人ですが歯科医師が約五十名しかおらず、国民に対する歯科医療の供給は皆無に近い状況です。

ネパール歯科医療協会はこのようなネパールに対し歯科保健医療に関する協力を行う目的で一九九九年に発足しました。現在、四七〇名の会員が登録されています。本会はネパールでの歯科保健医療活動を物心両面から支援すると共に派遣隊員の募集、他のNGO団体との情報交流、さらに各支部活動をめざし活動しています。

今日まで十二回のミッションをネパールに派遣しましたが、隊員は歯科医師、歯科衛生士、看護婦、研究者、栄養及び農業の専門家と学生などで延べ二五八名を数えます。現在までに歯科診療や歯科保健指導を行った村人は、合計三三九九名になります。

活動内容は歯科診療と予防歯科、巡回歯科保健、フッ素洗口、現地口腔保健専門家の養成

トイレプロジェクト、歯科疾患調査など歯科保健から健康プロジェクトまで多岐に渡っています。開発とは途上国が貧困から脱出するためのプロセスをさしますが、ネパール歯科医療協力会のミッションでは我々隊員の開発も重要であると思っています。

本会はNGOですので活動は迅速かつ自由に出て来ますが、財政的な運営に努力が必要です。今回戴いた夢みる子ども基金様からの支援金は、フッ素洗口や歯磨き指導などネパールの子供達の健康に関するプロジェクトに有効に使わせていただきます。

ご支援ありがとうございます。

開校目前の

「夢みる子ども基金学校」

バングラデシュと手をつなぐ会

ラフマン・モクレスール

(博多高等学校・英語教師)

夢みる子ども基金学校の建設がほぼ完成に近づいてきました。予定通り、雨期がやってくる前に建物の形を作っておこうということですが、今年一月から急ペースで建設が進められてきました。その結果、七月末現在、屋根も床も完成しました。内装工事を残すのみです。

八月現在でも雨期が続く、毎日のように雨が降っています。雨が降らなくても湿度が高いために、建物の中は簡単に乾燥しないのです。特に壁のセメントが乾燥しなければ、ペンキを塗る工事ができません。また、セメントや砂や他の建設材料は値段が高くなるし、物があっても地面がぬるぬるして運びにくいのです。

実際に子供たちは、新年度、つまり二〇〇

〇年一月からこの校舎を使いますので、無理に急がなくてもよいと判断し、秋を待っています。年末までに壁が乾燥し、ペンキ塗りの工事を終え、机やイスや教材を調達する予定にしています。

バングラデシュと手をつなぐ会では例年通り今年も十二月二十三日からカラムディ村の現地を訪れる「スタディーツアー」を計画しています。同じ時期に「夢みる子ども基金学校」の開校式をとり行う予定です。基金様からもぜひ参加し、子供たちや両親に励ましの言葉をかけて、顔の見える形で両国間の交流を深めていただきたいと思います。

ネパールの子供に教育のともしびを

福岡ニルマルポカリ小学校開校

福岡・ネパール児童教育振興会

会長 中島 祥光

日本で暮らすネパール人が母国を思い、特に貧困層の人たちの生活向上を願う気持ちはひとしおですが、その第一段階としてあげたのは、子供に対する教育環境の確保でした。それを受ける形で、多くの団体・法人・個人の善意の力を得、構想より二年をかけた本年七月にネパール王国のほぼ中心に位置するニルマルポカリ村に、小学校が開校致しました。その名を「福岡・ニルマルポカリ小学校」といいます。福岡市民とニルマルポカリ村人が為し得た一つの形であります。

この村の人々の生活は自給自足が基本です。従って現金収入がなく、授業料を払うことができないため、子供たちは通学を諦め、「夢」という発想さえ起こらない環境でした。

しかし、校舎建設の際、大勢の村人が水を汲み、岩を削り、石を運び、木を切り、人の手の要る工程のほとんどを労働奉仕で賄う姿や、校舎完成後に子供たちが机や椅子を麓から山の上にある学校まで運ぶ姿に、この学校への期待の大きさが自然に感じられ、責任の重大さを認識させられました。

今後当振興会は当該小学校の職員の給料やテキスト、ノートなど購入資金といった運営費用を支援してまいります。その資金獲得が重大な任務であります。

「99 夢みる子どもキャンペーン」ケーキが、つなぐ友情の輪の席において、貴基金様から、当振興会にご賛同いただき、過分にも十万円のご寄付を賜り、大変ありがたく誌面をお借りして深くお礼申し上げます。

今後ますます金属冠リサイクルの輪が広がりますようお祈り致しております。



▲ネパール歯科医療協力会の中村理事長(右)に助成金の目録を渡す河野基金理事長代行

夢みる子ども基金理事長
日本歯科医師会会長



中原 爽

石の上にも三年、という言葉がございませぬ。早いもので、この基金が福岡の地で産声をあげて六年目を迎えました。

患者さんの義歯再生で不要になった金属冠のリサイクルで、つぎの世代を担ってくれる子供たちの夢を育み、その夢を大きく膨らましていこう、とスタートしたのが一九九四年の二月でした。

その歩みは、ゆるやかでした。しかし、確実に、基金の善意の輪は広がり、六年目にして、大きく、そしてその輪を全国に広げています。

子供たちから、そのかなえない夢をテーマに、

夢みる子ども基金理事



アグネス・チャン

日本の子供たちと触れ合つて、強く感じることは、最近の子供たちから、どんどん夢が遠ざかり、夢が見失われていることです。

五年前、夢みる子ども基金の「子どもたちに夢を」という趣旨に賛同して、私も理事の一人に加わらせていただきました。

世の中の文明が進めば進むほど、逆に、子供たちの夢がどんどん見失われていつているような気がします。

いつの時代でも、どんなときでも、子どもた

全国から作文やイラストを公募、優秀な作品を送ってくれた子供たちで、「子ども会議」を開き、これを経て、年に一回「夢みる子どもキャンペーンイベント」を展開してきました。

第一回は、阪神大震災の子らを励ます「阿蘇子ども出会いの里」、二回目が筋ジストロフィーの少年バンドのコンサートを中心に「阿蘇子どもみどり村」を阿蘇の高原で実現しました。三回目は、国境を越え「世界の子どもと手をつなごう」を標題に福岡で、四回目は「夢の放送局」を大勢の市民でにぎわう福岡市のキャナルシティ博多で開催しました。

今年、節目となるべき、五回目は、「子ども会議」の末に決定した「ケーキがつなぐ友情の輪」を、熊本県南関町のリゾートシヨロピング大型施設セキアヒルズで実現、ギネスブックに掲載してもおかしくないような巨大なケーキを作り、児童養護施設などに配り、大喜びさ

ちの幸せを願うのは、大人の共通の願いです。

月日が経つのは早いもので、福岡市に基金が誕生して五年が経過しました。とはいっても、子供たちの夢は時間とともに小さくなるばかりで、子供たち自身、夢を実現させる勇気も、夢を追いかける楽しさも知らずに、日一日を過ごしているような気がしてなりません。私は、各地でそんな子供たちの姿を大勢見てきました。

それでも、基金は精一杯子供たちの夢はぐくみ、育てています。このような活動は世界的にも貴重な取り組みです。

毎年、基金に全国から集められる、子供たちの作文やイラストには、大胆で、発想豊かな夢が語られています。

れました。

不要になった金属冠を回収・再生し、その浄財で大勢の子供たちの小さな願いともいうべき夢を実現させていくことが、子供たちを、いかに勇気づけ、励ましているのか、この五年間の歩みで、じつくりと知ることができました。

これには、励ましの声や、数多くの善意が、福岡市にある事務局へ届けられています。大都会である東京、大阪はもちろん北海道からも「参加したいが…」といった積極的な声が届けられています。その反響は、想像できないほど広範囲に広がりを見せてきました。

基金は、つぎのステップである十年目を目指して、さらに行動を開始しますが、全国の、数多くの歯科医師の先生方にはこのキャンペーンの輪に加わっていただき、少しでも明るい未来を一緒に築き上げるように協力していただきたいものです。

そんな数々の夢の中から、みんなで夢の実現を目指して毎年、「夢みる子どもキャンペーンのイベント」を実施してきました。第一回は、熊本県阿蘇へ阪神大震災の子供たちと出掛け、今年も五年ぶりに再会して、熊本県南関町で全国から集まってくれた子供たちと大きな大きなケーキを作って、みんなで楽しく夢を語り合いました。

どうぞ夢に立ち向かうときの、子供たちの眼の輝きを見てください。きつと、大人は子供たちの眼の輝きから、大きな、大きなケーキのような幸せをプレゼントしてもらえはすです。

これからも、皆様の二層のご支援をお願い致します。私もさらに日本全国の、子供たちの夢を実現していくために努力して参ります。

日税連が基金の活動を評価

国内外のボランティア団体を支援している日本税理士連合会(日税連)の「愛のボランティア会」(森金次郎理事長)は税理士制度五十周年の記念事業として六月二十一日、各分野で積極的なボランティア活動を展開している、福岡、佐賀、長崎三県の六団体に各二十万円の助成金を贈ったが、夢みる子ども基金もその中に選ばれた。

助成金の贈呈式は九州北部税理士会の定期総会に先立ち、福岡市内のホテル日航福岡で行われ、夢みる子ども基金など六団体の代表が壇上へ上げられ、久原久同会長から古市悟基金顧問が助成金を頂戴した。受賞理由は「二十一世紀を担う子供たちの夢を育むため、子ども会議や各種イベントを開催し、地域の子供たちとの交流も行っている。また福祉関係への援助も行っている」。

五年間のキャンペーンが社会的に評価されたわけだが、受賞の陰には、同税理士会会員で基金の監事をして頂いている木村友則さんと顧問税理士の吉田雅俊さんのお力添えがあったことも大きいと思います。

助成金を受けた他の五団体は次の通り
*須恵町ボランティア連絡協議会(福岡県須恵町) 在宅・施設等の訪問による介護・清掃事業や音訳。

*紫川MICA P連絡協議会(北九州市) 〓アユの保護と清掃活動

*陽の里会(福岡県八女郡) 〓高齢者への給食サービス

*手びきボランティア光(佐賀市) 〓障害者へのサポートや自立支援

*長崎県手話サークル連絡協議会(長崎市) 〓県内十六の手話サークルの指導・連絡

満5年になった キャンペーン さらなる飛躍を

菌の金属冠リサイクルで子どもたちの夢をかなえ、福祉にも役立てようと、一九九四年(平成六年)福岡市で始まった「夢みる子どもキャンペーン」(主催 夢みる子ども基金)理事長・中原爽日本歯科医師会会長が今春、満五歳になりました。

日本歯科医師会の全面的な協力、厚生省などの後援でスタートしたものの、キャンペーンを財政的に支える参加歯科医院は当初約七〇〇件。全くの手探りで不安もありましたが、正月に全国の子供たちから「あなたがかなえたい夢」のタイトルで作文とイラストで夢を募集。この中から選ばれた子供たちが春休みに「子ども会議」を開いて夏休みに実施する「夢のイベント」を決定するシステムでキャンペーンを展開してきました。

第二回は阪神大震災で両親を亡くした子供たちを熊本県阿蘇に招いての「阿蘇」子ども出会の「里」、第二回は筋ジストロフィー少年パンドのコンサートを中心にした「阿蘇」子どもどり村」(三回目はバンングラデッシュに「夢みる子ども基金学校」の建設を決め、現地の子供たちを招いての「世界の子どもと手をつなごう」(福岡市)、四回目は子どもたちの夢や意見を発進する「夢の放送局」(同市)。

節目となる五回目の今年は、熊本県南関町での「ケーキがつなぐ友情の輪」のタイトルで巨大ケーキを作り、施設などに贈りました。このように毎年、趣向を凝らした様々なイベントで歯科医師の先生達や市民にもキャン

ーンが浸透。「次の時代を担う子どもたちに夢を与え、大人も一緒に夢がみれる楽しく意義がある素晴らしいキャンペーン」との評価をいただき、参加歯科医院もスタート時の二倍を超える二六六九件に成長しました。

キャンペーンではイベントばかりでなく、海外で活躍されている歯科医師のグループやボランティア団体などの寄付も続けています。しかし、私たちの最終的な目標は子供たちから寄せられる小さな夢から大きな夢までできるだけ多く実現し、しかも地球規模にキャンペーンを広げることです。

歯科医院の先生方を始め、一人でも多くの方たちのお力添えをいただき、キャンペーンの輪をさらに広げ、応援団の大人も子供たちと一緒に大きな夢をみたいと思います。そして希望にあふれた明るく温かい社会を築きたいと思えます。皆様の「一層のご協力」ご支援をお願いいたします。

一キャンペーンのあゆみ一

- H 5. 6.22 第1回準備会
- H 6. 2.14 キャンペーンスタート
- H 6. 4.22 マスコットキャラクターの愛称「はっくん」に決定
- H 6.12.29 第1回「子どもの夢」作文・イラスト募集

- H 7. 3.29 キャンペーン推進組織「夢みる子ども基金」設立
- H 7. 4. 2 第1回子ども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
- H 7. 7.27 第1回イベント「阿蘇子ども出会の里」開催(熊本県・久木野村)

- H 8. 1. 1 第2回「子どもの夢」作文・イラスト募集
- H 8. 3.24 第2回子ども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
- H 8. 3.26 神戸市にクスの苗木、ピースばらを贈呈、植樹
- H 8. 5.18-19 九州デンタルショーに出展(福岡国際センター)
- H 8. 7.25 第2回イベント「阿蘇子どもどり村」開催(熊本県・久木野村)

- H 8.11. 9-10 九州歯科医学大会に出展(熊本県)

- H 8.12.10 第3回「子どもの夢」作文・イラスト募集
- H 9. 4. 6 第3回子ども会議(アクロス福岡・国際会議場)
- H 9. 5.17-18 九州デンタルショーに出展(福岡国際センター)
- H 9. 7.21 第3回イベント「世界の子どもと手をつなごう」開催(福岡市中央区・大手門会館)

- H 9.10.25-26 九州歯科医学大会に出展(鹿児島県)

- H 9.12.10 第4回「子どもの夢」作文・イラスト募集
- H10. 4. 5 第4回子ども会議(アクロス福岡・国際会議場)
- H10. 5.16-17 九州デンタルショーに出展(福岡国際センター)
- H10. 7.25 第4回イベント「夢の放送局」とラプウォーク開催(福岡市博多区・キャナルシティ博多)

- H10.10.10-11 アジア パシフィック クリニシャンズデンタル ミーティングに出展(福岡市・エルガー7F)
- H10.10.24 九州歯科医学大会に出展(宮崎県)

- H10.12.10 第5回「子どもの夢」作文・イラスト募集
- H11. 3.28 第5回子ども会議(福岡県歯科医師会館・大ホール)
- H11. 5.29-30 九州デンタルショーに出展(福岡国際センター)
- H11. 8. 8 第5回イベント「ケーキがつなぐ友情の輪」開催(熊本県玉名郡南関町・セキアヒルズ)

参加歯科医院とリサイクル益金の推移

年 度	参加登録数	回収件数	リサイクル益金
スタート時	約700		
6年度	1,161	682	30,595,681円
7年度	1,296	407	36,298,050円
8年度	1,385	364	19,710,341円
9年度	1,533	291	26,274,093円
10年度	1,657	340	31,271,716円
H11.8	1,669		

都道府県別参加登録 歯科医院内訳

都道府県	数	都道府県	数
福岡県	494	愛知県	9
大分県	200	三重県	8
鹿児島県	145	岡山県	7
山口県	103	広島県	7
東京都	84	青森県	6
長崎県	71	山梨県	6
神奈川県	62	石川県	5
宮崎県	61	島根県	5
熊本県	57	香川県	5
佐賀県	56	愛媛県	5
沖縄県	33	岩手県	4
北海道	28	山形県	4
埼玉県	27	和歌山県	4
兵庫県	25	秋田県	3
千葉県	16	岐阜県	3
大阪府	16	滋賀県	3
茨城県	15	富山県	2
新潟県	13	福井県	2
福島県	12	京都府	2
栃木県	12	奈良県	2
静岡県	12	高知県	2
群馬県	11	鳥取県	1
宮城県	10	徳島県	1
長野県	10		



▲阿蘇の大自然をバックに第1回イベント参加者



▲学校建設資金の目録を受け取り、お礼をのべるバンングラデッシュ・カラムティ村のホック先生(左)



▲子どもキャスターによる「夢の放送局」



▲福岡市の中心をラプウォークしたキャンペーン参加者



▲アグネス・チャンさんと合同演奏する筋ジストロフィー